

マレーシアで食事に誘われたら

様々な民族や宗教の人たちが一緒に生活をするとはどういうことだろう。

国際交流基金 日本語パートナーズ経験者
庄村 夢

多様な民族の人たちが共存

昨年、私は国際交流基金の日本語パートナーズ派遣事業に参加し、マレーシアの公立中等教育機関へ日本語アシスタントとして派遣された。私が派遣されたペナン州は、マレー系(イスラム教)だけでなく、中華系(主に仏教)、インド系(主にヒンズー教)など多様な民族の人たちが共存する場所だ。市街地には、イスラム教のモスク、中華系の仏教寺院、インド系のヒンズー教寺院、そしてキリスト教の教会が道沿いに見られる通りがあり、マレーシアが多民族国家であることを物語っている。また学校の共有スペースには、マレー語、英語、中国語、タミル語と4種類の新聞がそろっており、毎日が新鮮な驚きの連続であった。

赴任前に、国際交流基金が実施する派遣前研修に参加し、マレーシアの文化や宗教などについて学ぶ機会があった。その時に「イスラム教では食べ物についての決まりが厳しく、特に豚肉とアルコールは一切口にできないから気を付けるように」と話があった。見ただけでは分からない原材料や保管場所等にも配慮が必要という話も耳にした。一方で、「マレーシアではよく食事に誘われる」という話も聞いた。様々な民族や宗教の人たちが一緒に食事をするときには、どうやって準備をするのだろうか、それとも別々に準備や食事をするのだろうか、と私は興味津々であった。

各自が自分のスタイルで食べる

マレーシアに赴任してすぐ、先生たちが学校の食堂へランチに誘ってくださった。赴任先の学校は、先生も生徒たちも様々な民族や宗教の人たちで構成されていたが、学校ではイスラム教徒が口にできるハラルフードのみを提供している。ランチbuffetのメニューを見ると、その日のメイン料理はチキン、ラム、魚だった。

中華系の先生によると「ハラルフードは、イスラム教の人が食べられるもの」と



学校の食堂 好きなものを選ぶ

という意味だよ。もちろん私たちも好きで食べるし、おいしいよ」とのことだった。食事をしながらふと見ると、主にマレー系の方は手を、中華系の方はスプーンやフォークを使うなど、各自が自分のスタイルで食べていた。

このランチに続いて、先生たちによるポットラック(各自が料理を持ち寄る)パーティがあった。話に聞いていたとおり、マレーシアの



赴任後すぐに先生たちとランチ(右手前が筆者)